



しがのふるさと支え合いプロジェクト

中山間地域を未来へ繋ぐ活動に参加しませんか？

参加企業様 大募集!!



未来へつなぐバトン

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

「中山間地域」とは、山間地とその周辺の地域をいいます。滋賀県では、県土の約65%がこのような地域です。農村は、食糧生産の場であるだけでなく、雨水を一時的に貯えて、洪水や土砂崩れを防いだり、たくさんの生き物を育みます。また美しい農村の風景は、私たちの心を和ませる役割を果たしています。

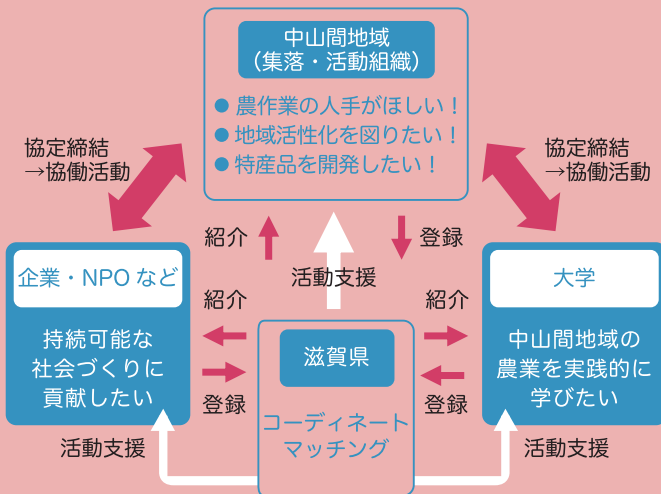
近年、中山間地域では人口減少や高齢化の進行、農業の担い手不足などにより、耕作放棄地の増加が心配されます。

今後、住民の力だけでは地域の農業、農村を維持するのが厳しい状況になりつつあります。

都市部に住む人々にも様々な『めぐみ』をもたらす中山間地域を、みんなで守っていきませんか？

都市と農村、世代を超えた人々との交流を「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を通して広げ、この大切な場所を未来へつなぎましょう！

プロジェクトのイメージ



【しがのふるさと支え合いプロジェクト】事業紹介

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」とは、中山間地域の活性化を目的に、地域の集落等と企業や大学、NPO法人等の皆さんが協働し、農作業や棚田の保全活動、都市農村交流活動などを行っていただく取組です。県では、協働活動のコーディネーターや、相手先とのマッチング、協定を締結し協働活動を行う団体への支援を行っています。

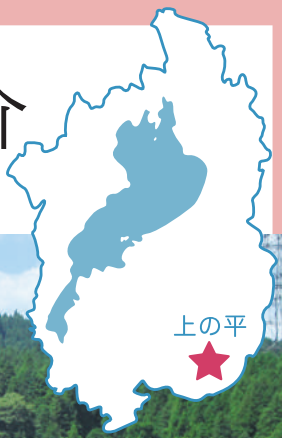
甲賀市土山町の上の平は、令和2年度に県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に登録し、地域活性化に向けた協定を締結して、ソバ等地域資源の商品開発や販路開発等の協働活動に協力してくれる企業等を募集しています。

詳しくは
こちら



甲賀市土山町上の平区の紹介

【アクセス】甲賀土山ICより車で15分、甲賀市コミュニティバス(あいくるバス)上の平下車すぐ



甲賀市土山町上の平(かみのひら)地区は背後に雄大な鈴鹿山脈を抱く、三重県境に位置する農山村である。会員制リゾートホテル「ダイヤモンド滋賀」も地区内にあり、併設される天然温泉施設は少しとろみのある泉質で癒されると評判だ。農業と林業を生活の主な生業としてきた地域で、自然と四季折々の風景を有する、これぞ日本の原風景と言っても過言ではないだろう。特に注目したいのは、この地域特有の「花笠太鼓踊り」。滋賀県を代表する民俗芸能として、滋賀県無形民俗文化財に指定されている。五穀豊穣を祈願する雨乞いの踊りであり、室町時代から江戸時代に流行した「風流踊り」を原型とした地域独自の、唯一無二の伝統行事である。ぜひ一度は訪れてほしい華やかな踊りだ。

▶大宮神社
大黒踊り

▶蕎麦の花

地域住民による
ソバ栽培への挑戦

上の平地区の住民は約70名、全26戸。約10haの農地では、米づくりを中心とした農業が営まれている。高齢化が進み、一時は半分ほどが不耕作地となったそう。



▶蕎麦脱穀

今、「集落環境見守り隊」という有志のメンバー16人が、不耕作地となっていた田んぼを活用してソバや景観作物の栽培に取り組んでいる。集落環境見守り隊発足のきっかけは区長の橋本榮次さんの呼びかけによるもの。不耕作地が増えていく現状を見て、上の平に受け継がれてきた美しい村の環境を守りたいと常日頃から感じていたそう。

とはいえ橋本さんは非農家である。友人で農家の岡田さんにその思いを伝えたところ、不耕作地の草を刈っているだけで作付けもしないのはいらない状況に危機感を感じていたことがわかった。目指すところが一致し、令和2年度より住民を巻き込んでソバ栽培をスタートすることになったそう。

集落環境見守り隊のメンバーは30代〜70代と幅広く、すべて地域の住民で構成されている。橋本さんの他にも非農家のメンバーもあり、初めてのソバ栽培がスタートした。一年目は20a、二年目は30aのソバを作付けし、今まで何もなかった田んぼに白い可愛らしい花が咲いた。また、草を刈って作物を栽培するだけでなく、「楽しみ」「持続性」「収益」が必要だと考え、ソバの実を収穫・製粉・製粉・ソバ打ちまで行い、住民に試食をしてみようとした。この経験を次年度の生産や今後の6次産業化に活かす取り組みを進めている。



「集落環境見守り隊」

右 岡田 治美 氏

左 橋本 榮次 氏

手を取り合って歴史のバトンを
繋げてくれる団体を募集中

上の平地区では新しい風を吹き込むため、連携できる企業や大学を探している。ソバを使った新たな商品開発や販売などを含め、種まきや収穫などのサポートに興味のある企業は是非とも一度足を運んでみてほしい。ひとつひとつを手作業で行うため、食の大切さを改めて実感することができる。

また、花笠太鼓踊りの継承のために大学の連携先も探している。伝統行事を後世に伝えていくため、学生たちに踊り手として参加してもらいたいという思いがあるのだ。さまざまな工夫を凝らし、地域全体で歴史を守り伝えようとしている想いが形になることを楽しみにしたい。農地を維持し、伝統を守ってきた住民たちの歴史のバトンをぜひとも繋げてほしい。

